

科目名	看護の統合と実践Ⅲ 演習(危険予知訓練)						
科目名(英)	Nursing integration and practice III						
単位数	1単位	時間数	14/30	担当者	梶澤 芳江		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	医療安全に関する知識のみの教授に終わらず演習を通して、患者の危険を察知する能力、対処する時に自分の能力を見越した上でどのように対処するのかの判断能力、また自己の思考の傾向についても体験を通して学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人間の特性から事故発生メカニズムと医療事故防止対策について学ぶ。	
	○	○				偽医療事故を全員が体験することで実際の医療事故について知る。	
	○	○				模擬医療事故体験を振り返り自己モニタリング能力を知ると共に、自己の傾向や医療事故が発生する環境・要因に気づく。	
	○	○				医療現場での状況下に潜んでいる危険に自ら気づく能力を育むことを狙いとする。	
	○	○					
	○	○					
	○	○					
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料 医療事故に関する資料すべて						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	事故を誘発する要因			配布資料の事前通読		
	2				配布資料の事前通読		
	3	「転倒」に偽医療事故体験 シミュレーション			配布資料の事前通読		
	4				配布資料の事前通読		
	5				配布資料の事前通読		
	6	偽医療事故体験の振り返り			配布資料の事前通読		
	7				配布資料の事前通読		
評価方法	評価: 提出レポート内容計100% 成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 *看護の統合と実践Ⅲ1単位取得には、(概論・各論100%+演習100%)/2=60%以上が必要。						

科目名	看護の統合と実践Ⅲ 講義						
科目名(英)	Nursing integration and practice III						
単位数	1単位	時間数	16/30	担当者	福村文雄 林真由美 清成道子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	安全文化の醸成は看護管理の一端である。しかし緩やかに流れていた昔の医療現場と違い今日の、中でも急性期医療の現場を鑑みした場合、単に安全・安心のための確認という手続き論に教育が終わって良いわけではない。また多様な業務を担う看護師であり独特な危険特性が潜む中、体系的に医療安全について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護職の法的規定・責務について説明できる。	
	○	○				看護事故の構造を2群に分けて捉え看護事故防止の考え方を説明できる。	
	○	○				国や団体、施設を組織と捉え、さらに安全に対する文化など幅広い視点から医療事故への取り組みを説明できる。	
	○	○				看護業務の中で他職種にも共通・関連する医療事故の視点から医療事故防止を説明できる。	
	○	○				新人職者特有の行動パターンから医療事故防止を説明できる。	
	○	○				チーム医療において安全で適切な医療・看護を提供するために重要なコミュニケーションのあり方を説明できる。	
	○	○				医療現場で多く発生する医療事故の種類とその対策を事例と共に説明できる。	
テキスト・教材参考図書	講師配布資料 医療事故に関する資料すべて						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	事故防止の考え方			配布資料の事前通読		
	2	組織的な安全管理体制へとの取り組みとわが国の医療安全対策への展望			配布資料の事前通読		
	3	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因			配布資料の事前通読		
	4	医療安全とコミュニケーション			配布資料の事前通読		
	5	医療事故の種類と安全対策:与薬①			配布資料の事前通読		
	6	医療事故の種類と安全対策:与薬②			配布資料の事前通読		
	7	医療事故の種類と安全対策:医療機器・医療用具のトラブル			配布資料の事前通読		
	8	医療事故の種類と安全対策:検査に関する事故					
評価方法	・3名の講師による講義内容を筆記試験合計100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(福村、清成、林)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 *看護の統合と実践Ⅲ 1単位取得には、(概論・各論100%+演習100%)/2=60%以上が必要。						

<b>科目名</b>	看護学概論Ⅱ 事例検討						
<b>科目名(英)</b>	Introduction to nursing science II: Case study						
<b>単位数</b>	1単位	<b>時間数</b>	15/30	<b>担当者</b>	上田朋紀		
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	前期	<b>実務家教員 担当科目</b>	○		
<b>対象学科・学年</b>	看護科 2年生						
<b>授業概要</b>	看護過程実習の思考の集大成として看護過程の展開について事例を下に再学習をする。机上でヘンダーソン理論と看護過程の展開を学んだ内容と事例との関連図ける内容である。学習方法は、実習中のメンバーとグループワークにて進めていく。						
<b>授業形式</b>	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
<b>学習目標 (到達目標)</b>	言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標
	○	○					看護過程の概要を説明することができる。
	○	○					看護過程の基盤となる考え方を説明することができる。
	○	○					アセスメント(情報収集)について説明することができる。
	○	○					アセスメント(情報の分析・解釈)について説明することができる。
	○	○					ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント・事例におけるアセスメントについて説明することができる。
	○	○					看護問題の明確化について説明することができる。
	○	○					看護診断・共同問題の表記について説明することができる。
	○	○					問題の優先順位について説明することができる。
	○	○					ヘンダーソンの看護論に基づく問題の明確化・事例における問題の明確化について説明することができる。
	○	○					看護計画について説明することができる。
○	○					評価について説明することができる。	
<b>テキスト・教材 参考図書</b>	ナーシンググラフィカ 看護学概論 系統別看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 実習中のファイル						
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護過程の概要、看護過程の概要、看護過程の構成要素、看護問題の明確化、計画、実施、評価				シラバス参照	
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
<b>評価方法</b>	・看護理解について、各グループ口頭試問にて確認。(グループワーク中の態度含) 学生に提示した評価表にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問	◎	◎		◎		100%
<b>履修上の注意</b>	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	基礎看護技術Ⅶ 看護研究						
科目名(英)	Basic nursing technologyⅦ Nursing Reserch						
単位数	1単位	時間数	15	担当者	光武 和寿		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	既存の知識や理論を活用するプロセスを学び、看護実践に継げるために看護研究の重要性を理解し、科学的思考や態度を身につける。実際の看護研究文献を読み解きながら看護研究の理解を深める。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				研究に対する基本的倫理の考え方や研究に対する倫理的配慮の必要性を説明できる。	
	○	○				看護研究過程や研究に関する専門用語を説明できる。	
	○	○				実験看護研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。	
	○	○				調查看護研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。	
	○	○				事例看護研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。	
	○	○				文献研究文献を読み教員が提示した課題を実施できる。	
	○	○				論文の書き方、引用文献・参考文献等の研究報告の書き方の基本が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	看護学概論テキスト 参考図書:『これからの看護研究—基礎と応用—』『jinブックス 看護研究の進め方 論文の書き方』看護研究スタッフを指導するために 第2版 等						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	研究とは何か、看護研究とは、看護研究と倫理的配慮				教員が提示した事前課題を指定した講義までに完成させる。	
	2	看護研究過程の概観、看護研究における文献検索の意義					
	3	ケーススタディー研究課程について					
	4	実験研究について					
	5	調查看護研究について					
	6	事例研究について					
	7	論文の書き方、文献研究について					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・態度は、講義中の参加状況、事前課題の実施状況による判断する。</li> <li>・試験は、講義中の資料を持ち込みとし、講義期間中程度同様に文献を読みながら課題実施の形式とする。</li> <li>・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	態度				◎		20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護論方法 I						
科目名(英)	Home nursing theory I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	角 美緒		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、生活自立が困難で支援を必要とする人とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			訪問看護師として、また社会人として、マナーを意識しながら振る舞うことができる。	
	○	○				療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にみていくこと、また必要な介助を見きわめるための動作分析について説明できる。	
	○	○				「食生活・嚥下」「排泄」「移動・移乗」「清潔」に関して在宅で求められる看護技術を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 その他在宅看護論に関する資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	在宅における日常生活支援の概要 在宅における日常生活支援の視点				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	2	在宅における日常生活支援の概要 在宅訪問のマナー					
	3	在宅における日常生活支援の概要 在宅訪問のマナー(実演)					
	4	在宅における日常生活支援(環境・移動・食事・排泄・清潔)のアセスメントの視点					
	5	在宅における日常生活支援(環境・移動・食事・排泄・清潔)のアセスメントの視点					
	6	在宅における日常生活支援の実際					
	7	在宅看護における対象者の把握と療養生活に応じた日常生活援助(直接支援技術)					
	8	在宅看護における教育(指導)技術・相談技術					
	9	在宅療養者と家族への配慮					
	10	在宅における日常生活支援の実際 援助の工夫点と留意点					
	11	在宅における日常生活支援の実際 利用可能な社会資源					
	12	在宅における日常生活支援の実際 (発表)					
	13	在宅における日常生活支援の実際 (発表)					
	14	事故により中途障害者となった成人男性の看護ケア					
	15	せき損センター(見学)					
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容を筆記試験(100%)にて評価を行う。</li> <li>・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	社会福祉と社会保障 I						
科目名(英)	Social welfare and social security I						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	社会福祉士		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学	看護科 2年生						
授業概要	社会保障の理念と基本的な制度についての考え方の理解や、法律に基づく生活者の生活問題に対する社会福祉の方法と課題について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				生活と社会福祉との関わりが理解できる。	
	○	○				社会保障の定義と社会保障制度の歴史が理解できる。	
	○	○				社会福祉の担い手の種類・役割が理解できる。	
	○	○				社会福祉実践の目的や社会資源の活用方法について理解できる。	
	○	○				障害者福祉に関する施策について理解できる。	
	○	○				社会保障制度の仕組みを理解できる。	
	○	○				地域福祉計画とは何かが理解できる。	
	○	○				子育て支援、児童虐待に関する施策について理解できる。	
テキスト・教材参考図	ナーシンググラフィカ 社会福祉と社会保障						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	現代社会と社会福祉・社会保障				配布資料の事前通読	
	2	暮らしと社会福祉・社会保障					
	3	社会保障の定義					
	4	社会福祉・社会保障の歴史					
	5	ソーシャルワーカーの役割					
	6	社会福祉の実践方法					
	7	社会資源の活用方法					
	8	ライフサイクルと社会福祉:子ども・家庭福祉の施策体系と制度					
	9	ライフサイクルと社会福祉:障がい者と福祉					
	10	社会保障(社会保険)制度:年金制度					
	11	社会保障(社会保険)制度:介護保険制度					
	12	保険・医療・福祉の連携:地域福祉計画					
	13	保険・医療・福祉の連携:保健所法					
評価方法	筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
修上の注	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学実習						
科目名(英)	Pediatric nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90	担当者	臨床指導者・小金丸 翔子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	小児期にある対象の特徴を理解し、成長発達段階・健康段階に適した援助について基本的な知識・技術・態度を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 健康な小児の成長発達と援助の方法を説明できる。	
	○	○				2. 小児の成長発達について説明できる。	
	○	○	○			3. 小児の発達段階、健康障害をふまえてニーズや日常生活習慣を分析し、必要とされる看護援助を実施できる。	
	○	○				4. 入院が小児や家族へ及ぼす影響を理解し、より良い看護の方法を説明できる。	
			○	○		5. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	小児看護学の講義資料 その他、小児に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週 1 週間 ( 保育 所)	授業項目・内容				授業外学修指示	
		小児の身体的・心理的発達				小児看護学実習に必要な資料の振り返り	
		基本的生活習慣の把握					
		遊びを通して社会性の発達状況					
	発達段階に応じた保育士の援助方法						
	週 2 週間	小児特有の情報を収集				小児看護学実習に必要な資料の振り返り	
		小児の病態・生活・人間像の情報収集と記述					
		情報の分析から問題の成り行きと看護の方向性					
		看護上の問題の判断					
		看護計画の立案における目標の設定と具体策					
		小児の生活環境の安全管理					
		虐待の事例を基にカンファレンス					
		外来での急性期・慢性期の看護					
		検査・処置における援助の方法					
	NICUでの保育環境						
	母子関係確立とNICU特有の援助方法						
	評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
レポート・発言・言動		◎	◎	◎			70%
態度					◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	小児看護学方法Ⅲ								
科目名(英)	Pediatric nursing method Ⅲ								
単位数	1単位	時間数	15	担当者	小金丸 翔子				
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年	看護科 2年生								
授業概要	ペーパーパシエントによる看護過程の展開を学ぶ。急性期の学童期の看護上の問題の検討を中心として、急性期の小児に起こり得る症状と、症状のメカニズム・看護問題に対する理解が深まるよう構築した。また、学内での技術演習として安全に関する演習を含む内容とした。								
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	目標				
	○	○	○		1. 紙上事例を通して急性期(学童期)の患児の看護過程を展開できる。 2. 対象の個別性と倫理に則した吸入の援助を行うことができる。				
テキスト・教材 参考図書	統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／臨床看護総論 統計看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 臨床看護各論 小児看護学の講義資料、その他小児看護や病態に関する資料、配布資料								
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示		
	1	小児の疾患と症状の特徴を踏まえた情報収集・アセスメント					紙上事例に対する看護過程はグループワークにて実施、分析・理解を深める。		
	2	小児の発達段階を踏まえた情報収集・アセスメント							
	3	健康障害に対する小児と家族の影響を踏まえた情報収集・アセスメント							
	4	看護診断(看護上の問題)							
	5	看護計画							
	6	事例の看護計画(吸入)に沿って実施、経過記録を作成							
	7								
	8	看護過程の評価(振り返り)							
評価方法	60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	レポート	◎	◎				50%		
	演習			◎	◎		50%		
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。								

科目名	成人看護学実習 I						
科目名(英)	Adult nursing practice I						
単位数	2単位	時間数	90	担当者	臨床指導者・西島明日香 山本勇也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、健康上の課題を抱えた人の看護を、主に医療施設を中心に、多職種との連携・協働を図りながら看護実践を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 侵襲的治療により、身体的危機状況にある対象の状況を述べるができる。	
	○	○	△			2. 生体機能の急激な変化とその結果、深刻なセルフケア困難に陥っている対象の状況について述べるができる。	
	○	○	○			3. 不安定な状態の生態を考慮し、せりのニード充足のためのセルフケアの援助ができる。	
	○	○				4. 変化の著しい状態にある対象および家族に支持的に関わるができる。	
					○ ○	5. 急性期にある対象やその家族に関わる医療スタッフ連携を説明できる。	
					○ ○	6. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	手術による身体機能の変化、生態反応				成人看護学に必要な資料の振り返り	
		急激な健康破綻を来した人への看護					
		健康破綻から回復を促進する看護					
		治療に伴う合併症の予防と想起回復のための看護援助					
		健康危機状況における成人の苦痛					
		健康危機状況に二における生活行動					
		医学的治療で要求される生活行動の制限と生活行動の変化					
		健康危機状況にある人の心理的・精神的安定を図るための看護					
		同一組織における多職種の連携					
		各職種間の情報共有、協働・連携					
退院に向けた支援、外依							
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者。 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Adult nursing practiceⅡ						
単位数	2単位	時間数	90	担当者	臨床指導者・西島明日香 山本勇也		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、健康障害に応じた日常生活援助と、疾患をコントロールしながらセルフマネジメントするための援助を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			1. 慢性経過をたどる対象の身体状態をふまえ、増悪の予防にむけた援助が理解できる		
	○	○	△		2. 疾病の経過に伴う身体的苦痛、身体機能悪化と緩和ケアについて理解できる。		
	○	○	○		3. セルフケアが障害されている部分に対する援助が実施できる。		
	○	○			4. 生活の再編成や疾病のコントロールができるよう援助することができる。		
					5. 疾病を持ちながら生活していく過程で、課題を持つ対象や家族の心理的支援が実施できる。		
					6. 継続的なセルフマネジメントのために、対象に必要な社会資源を考えることができる。		
			○	○	7. 看護師倫理に則して実習を行うことができる。		
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	疾患の経過と予後の予測			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		治療や日常生活におけるセルフマネジメント支援					
		疾患の経過に伴う身体的苦痛、身体機能悪化と緩和ケア					
		長い経過に伴う不安への援助					
		セルフマネジメント、ターミナルステージにおける治療や検査時の看護					
		慢性経過をたどる対象を取り巻く医療チーム					
		看護過程の展開					
評価方法	評価者: 指導教員と臨床指導者。 評価基準: 5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学方法Ⅱ 循環・ME						
科目名(英)	Adult nursing methodⅡ Circulation, ME						
単位数	2単位	時間数	32/60	担当者	山本 勇也 井桁 洋貴		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、循環器機能障害および、医療機器を中心に学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 循環器疾患に関する医療の動向について説明できる。	
	○	○				2. 循環器疾患に対する身体的問題および精神、社会的な問題について説明できる。	
	○	○				3. 循環機能のメカニズムを説明できる。	
	○	○				4. 循環機能が障害されたときの要因、および循環機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えているか説明できる。	
	○	○				5. 疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 循環器[3]						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医療の動向と循環器看護の特徴(山本)				配布資料の事前通読	
	2						
	3	循環器系の検査・治療・処置を受ける患者の看護(山本)				配布資料の事前通読	
	4						
	5						
	6	循環器で特徴的な治療・処置と患者の看護(山本)				配布資料の事前通読	
	7						
	8						
	9	虚血性心疾患患者の看護(山本)				配布資料の事前通読	
	10						
	11	主要な循環器疾患をもった患者の看護(山本)				配布資料の事前通読	
	12						
	13	医療機器の取り扱いについて(井桁)				配布資料の事前通読	
	14						
	15	循環器手術療法看護(山本)				配布資料の事前通読	
16	集中治療室看護(山本)				配布資料の事前通読		
評価方法	・2名の講師による講義内容を筆記試験各50% 合計100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(山本)	◎	◎				80%
	筆記試験(井桁)	◎	◎				20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 成人看護学方法Ⅱ 2単位取得には、(成人看護学方法Ⅱ 循環器100%+呼吸機能障害50%+生態防御25%+血液機能障害25%+救急看護論100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	成人看護学方法Ⅱ BLS・救急看護						
科目名(英)	Adult methodⅡ BLS・emergency nursing						
単位数	2単位	時間数	10/60	担当者	小田 浩之 吉川 英里		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、救急医療および、看護の視点を中心に学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 救急看護の場・対象・特徴を述べるができる。	
	○	○				2. 救急看護の役割について述べるができる。	
	○	○				3. 救急患者の身体的問題および心理・社会的な問題について述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	講師資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	BLS演習(小田)				配布資料の事前通読	
	2	救急看護の概念(小田)				配布資料の事前通読	
	3	救急看護の対象の理解(吉川)				配布資料の事前通読	
	4	主要病態に対する救急処置と看護(吉川)				配布資料の事前通読	
	5	免疫機能の観察とアセスメント(吉川)				配布資料の事前通読	
評価方法	・2名の講師による講義内容を筆記試験各50% 合計100%にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(小田)	◎	◎				50%
	筆記試験(吉川)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 成人看護学方法Ⅱ 2単位取得には、(成人看護学方法Ⅱ 循環器100%+呼吸機能障害50%+生態防御25%+血液機能障害25%+救急看護論100%)/3=60%以上が必要。						

<b>科目名</b>	成人看護学方法Ⅱ 呼吸・感染・血液						
<b>科目名(英)</b>	Adult Nursing Method II: Respiration, Infection, Blood						
<b>単位数</b>	2単位	<b>時間数</b>	18/60	<b>担当者</b>	山本 勇也 山下 智雅 和田 麻美		
<b>実施年度</b>	2019年度	<b>実施時期</b>	前期	<b>実務家教員 担当科目</b>	○		
<b>対象学科・学年</b>	看護科 2年生						
<b>授業概要</b>	重点的な医学的管理を要し、深刻なセルフケア困難に陥っている成人の危機を予防・回避することを目標とした看護を学べる内容を教授する。本科目では、呼吸器機能障害、生態防御機能障害、血液・造血機能障害の視点を中心に学ぶ。						
<b>授業形式</b>	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
<b>学習目標 (到達目標)</b>	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				1. 呼吸器疾患患者や生体防御機能障害に対する身体的および精神・社会的問題について述べることができる。	
	○	○				2. 呼吸器障害や生態防御機能障害のメカニズムについて述べるができる。	
	○	○				3. 呼吸器疾患や生態機能障害が患者の日常生活にどのような影響を与えるか述べることができる。	
	○	○				4. 急性期を経て、慢性期、外来・在宅という継続看護について述べるができる。	
	○	○				5. 疾患の特徴を理解し、援助および患者・家族指導の重要性を述べるができる。	
<b>テキスト・教材 参考図書</b>	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学呼吸器[2] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 血液・造血器[4] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 アレルギー・膠原病/感染症[11]						
<b>授業計画</b>	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	呼吸器疾患の概要(山本)				配布資料の事前通読	
	2	呼吸器の構造と機能(山本)				配布資料の事前通読	
	3	呼吸機能障害の観察とアセスメント(山本)				配布資料の事前通読	
	4	呼吸機能障害をもつ患者へのおもな看護(山本)				配布資料の事前通読	
	5	免疫機能の観察とアセスメント(和田)				配布資料の事前通読	
	6	免疫機能低下の看護(和田)				配布資料の事前通読	
	7	感染症の観察とアセスメント(山下)				配布資料の事前通読	
	8	感染症の看護(山下)				配布資料の事前通読	
	9	継続看護、患者・家族指導(山本)				配布資料の事前通読	
<b>評価方法</b>	・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(山本)	◎	◎				50%
	筆記試験(山下)	◎	◎				25%
	筆記試験(和田)	◎	◎				25%
<b>履修上の注意</b>	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 成人看護学方法Ⅱ 2単位取得には、(成人看護学方法Ⅱ循環器100%+呼吸機能障害50%+生態防御25%+血液機能障害25%+救急看護論100%)/3=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅴ 眼						
科目名(英)	Pathophysiology V. Eye						
単位数	1単位	時間数	6/(30)	担当者	吉山 慶三		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	眼疾患、がもたらず身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。眼疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				眼の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				視覚障害について説明できる。	
	○	○				代表的な眼疾患について原因・症状・治療について説明できる。	
	○	○				白内障、緑内障の原因・症状・治療について説明できる。	
○	○				網膜症の治療の原因・症状・治療について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 眼 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	眼の解剖と機能、視覚障害・屈折異常について				配布資料の事前通読 通読	
	2	疾患の理解(眼瞼の疾患、結膜の疾患、ぶどう膜の疾患、網膜の疾患)					
	3	疾患の理解(緑内障・白内障・網膜症の治療)					
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(吉山)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅴ 歯						
科目名(英)	Pathophysiology V. Skin						
単位数	1単位	時間数	6/(30)	担当者	中松 耕治		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	歯疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。歯疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				歯、口腔の構造と機能について説明できる。	
	○	○				歯、口腔の疾患の種類がわかる。	
	○	○				歯、口腔の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				歯、口腔の疾患の種類が説明わかる。	
	○	○				代表的な歯、口腔の病態と治療法が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 歯 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	歯、口腔の解剖と機能、耳の疾患の種類について				配布資料の事前通読 通読	
	2	歯、口腔の解剖と機能について					
	3	歯、口腔に関する病態と治療法、疾患の種類について					
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(中松)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅴ 耳鼻咽喉器						
科目名(英)	Pathophysiology V. Ear nose and throat						
単位数	1単位	時間数	6/(30)	担当者	麻生 丈一郎		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	耳鼻咽喉器疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。耳鼻咽喉器疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				耳の構造と機能について説明できる。	
	○	○				耳の疾患の種類がわかる。	
	○	○				咽頭の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				咽頭の疾患の種類が説明わかる。	
	○	○				代表的な耳鼻咽喉系の病態と治療法(中耳炎・難聴・メニエール病)が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 耳鼻咽喉 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	耳の解剖と機能、耳の疾患の種類について				配布資料の事前通読 通読	
	2	咽頭の解剖と機能について					
	3	耳鼻咽喉系の病態と治療法、咽頭の疾患の種類について					
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(麻生)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理学Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	病態生理学Ⅴ 皮膚						
科目名(英)	Pathophysiology V. Skin						
単位数	1単位	時間数	8/(30)	担当者	幸田 太		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	皮膚疾患、がもたらす身体内部の変化について理解し、科学的根拠に基づいた看護を展開するための基礎知識とする。皮膚疾患に関する疾患の原因、症状、検査、治療を幅広く学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				皮膚の構造と機能について説明できる。	
	○	○				皮膚の疾患の種類がわかる。	
	○	○				皮膚の解剖と機能について説明できる。	
	○	○				皮膚の疾患の種類が説明わかる。	
	○	○				代表的な皮膚の病態と治療法が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 皮膚 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	皮膚の解剖と機能、耳の疾患の種類について				配布資料の事前通読 通読	
	2	皮膚の解剖と機能について					
	3	皮膚に関する病態と治療法、皮膚の疾患の種類について①					
	4	皮膚に関する病態と治療法、皮膚の疾患の種類について②					
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(幸田)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。 * 病態生理Ⅴ1単位取得には、(病態生理学Ⅴ耳鼻咽喉器100%+眼100%+皮膚100%+歯100%)/4=60%以上が必要。						

科目名	母性看護学方法Ⅱ						
科目名(英)	Matrnrity nursing method Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30	担当者	浅見 詩織		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	母性看護学方法Ⅱでは、母性看護学方法Ⅰでの学びに加え、各期における看護を学ぶとともに、新生児の看護についても学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				1. 各期における異常と母子に及ぼす影響について学び、対処方法を説明することができる。	
	○	○				2. 新生児の胎外生活への適応と異常について説明することができる。	
	○	○				3. 妊娠・分娩・産褥及び新生児の生理的変化が順調に経過するための看護方法を説明することができる。	
	○	○				4. 異常時の看護師の役割を述べることができる。	
○	○				5. 母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の活動を学び、対象者に応じた援助方法を考えることができる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	妊婦と家族の看護				テキスト事前通読、適宜課題実施	
	2	産婦と家族の看護					
	3	分娩期の看護					
	4	新生児の生理					
	5	新生児のアセスメントと看護					
	6	褥婦と家族の看護					
	7	施設退院後の看護					
	8	ハイリスク妊娠					
	9	ハイリスク妊婦の看護					
	10	分娩の異常					
	11	異常分娩時の看護					
	12	新生児の異常と看護					
	13	産褥の異常					
	14	異常のある褥婦の看護					
15	精神障害合併妊婦と家族の看護						
評価方法	・講義内容を 筆記試験 にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学方法Ⅲ						
科目名(英)	Maternity nursing method Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	15	担当者	浅見 詩織		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	母性看護学方法Ⅲでは、ペーパーペイシエント(正常分娩を終えた褥婦)による看護過程の展開を、ウェルネスの視点で考えていくことができるよう学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			1. 模擬患者(褥婦および新生児)のアセスメント項目と診断に必要な情報を収集することができる。	
	○	○	○			2. 模擬患者の状況が正常であるのか、逸脱状態であるのかを判断し記述することができる。	
	○	○	○			3. 模擬患者に必要な指導の指導計画案を作成することができる。	
	○	○	○	○		4. 指導案に基づき、模擬患者の個性に沿った保健指導が実施できる。	
○	○	○	○		5. 保健指導について意見交換した後、実施した内容をSOAPで評価できる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護学の講義資料</li> <li>・マタニティ診断ガイドブック 第5版 他</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	母性看護学における看護過程の特徴				母性看護学に必要な資料の準備及び復習	
	2	褥婦、新生児の看護過程におけるアセスメントの視点					
	3	看護過程事例紹介					
	4						
	5	各グループに分かれて看護過程の展開 ～情報の分析・解釈と看護問題の明確化～					
	6						
	7						
	8	各グループに分かれて看護過程の展開 ～看護問題の確認(支援の必要性)と看護計画立案～					
	9						
	10						
	11	1)産褥の保健指導について 2)指導計画案の作成					
	12						
	13						
	14	1)模擬患者への保健指導の実施・発表 2)評価(SOAP)で記載					
15							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークにて作成した看護過程のレポート(50%) 演習での発表内容(50%) 合計100%にて評価を行う。</li> <li>・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎	◎			50%
	発表	◎	◎	◎	◎		50%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学実習 I						
科目名(英)	Gerontological nursing Practice I						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 田中 美香		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	看護科 2年生						
授業概要	高齢者と健康障害をもつ高齢者の特徴および高齢社会における看護の果たす役割を理解し、老年看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴、生活行動、生活援助、施設の役割について説明できる。	
	○	○				2. 療養する高齢者の、生活機能の問題(課題)と必要な看護をアセスメント(分析・判断)し説明できる。	
	○	○	○			3. 療養する高齢者の、強みを活かした生活援助を実施できる。	
	○	○				4. 療養する高齢者の、家族支援や多職種連携の必要性について説明できる。	
				○		5. 高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度で実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学</li> <li>・老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料</li> </ul>						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 週間 (施設)	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴				施設について事前学習 老年看護学の授業の復習	
		高齢者の生活行動の特徴					
		高齢者のその人らしさ、高齢者を敬う態度					
		高齢者の強みを活かした生活援助					
		高齢者の生活を支える施設と看護の役割					
	2 週間 (病棟)	療養する高齢者の身体的・精神的・社会的特徴				老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習	
		療養する高齢者の生活行動の自立度					
		療養する高齢者のその人らしさを知る					
		療養する高齢者の望ましい生活を考える					
		療養する高齢者の生活機能の問題(課題)					
		療養する高齢者の強みを活かした生活援助の方法					
		療養する高齢者の家族を支援する必要性					
療養する高齢者の望む生活に向けた多職種連携の必要性							
高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度							
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習記録用紙、発言・行動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						